

SYSCOM グループと日本企業 TSH がクラウド分野で協力

【2010-11-10 工商時報】

全世界でクラウドが普及しつつある。台湾のSI企業SYSCOMグループはクラウド分野で積極的な動きを見せており、日本の有名なソフトウェアベンダ東京システムハウス（以後TSH）とデータセンターを運営しているビック東海グループと協力してレガシーシステムの資産をクラウド化するソリューション『MMS+ CLOUD』を提供し、先日、共同記者会見で協業成果を発表した。3社の協業を通じて企業向けクラウド分野での日本、台湾、中国3地域によるソフトウェア開発での協力関係『新ゴールドトライアングル』を構築した。

SYSCOM グループ総経理劉瑞隆氏は次のように語った。

「2010年はクラウド元年と呼ばれており、マイクロソフト、グーグル、シスコ、HP等の海外IT企業が次々とクラウド関連市場に参入、また、台湾政府も5年間で240億元の予算を組んでクラウド分野に投資し、新産業として育成していくつもりです。これらから全世界でクラウドに注目を集めていることが分かります。」

過去、台湾製造業はシリコンバレー、台湾及び中国の協力関係『ゴールドトライアングル』で繁栄をつかむことができました。この度の協力で日本(開発、ブランド)、台湾(運営管理)、中国(生産コスト 市場)を活用した協力関係『新ゴールドトライアングル』モデルを発展できることを確信しています。弊社とTSH様との長年の協力関係を生活かして弊社が中国で育成した優秀な人材を活用して高品質のソフトウェア開発サービスを提供しました。『MMS+ CLOUD』は弊社が開発したデータベース管理システム『DBMaster』を採用しており、TSH様が15年間提供してきたマイグレーションサービス『MMS』のクラウド化をサポートしていきます。」(黃志偉 / 台北)